

# 大船中央病院がNEWSです!

第7回 現場にアタック ～前編～

## 放射線治療室について知りたい!



現在稼働中の放射線治療装置(リニアック)の前で肩を組む  
左から青木陽介技師、須藤泰信副技師長、武田篤也室長、大岡義一技師

### 医師・物理士・技師・看護師・事務が一枚岩の強力なチームとなって がん治療にあたる全国有数の治療実績を持つ放射線治療室にアタック

平成23年2月より放射線治療装置の増設工事が始まりまし。今秋の完成を目指し着々と工事は進んでいます。  
当院の放射線治療室が世界レベルの高い治療実績を持つていることにご存知だったでしょうか?  
では、どのような理由で世界レベルなのか、そもそも放射線治療とはなにか、治療装置が増設されることで治療室、そして病院はどう変わるのか、数々の疑問を解消すべく、放射線科、放射線技師 大岡義一さんにお伺いしました。

放射線治療室の増設工事が始まりまし  
大岡 いろいろな職員から、どうしてあんな工事をしているのか、莫大な経費をかけて増設するくらいなら職員の福利厚生に充てたいのでは、など色々話かけられます。  
新たな放射線治療装置でなにをするのかというところ、今までとは違う特殊な放射線照射をします。病気のところに放射線を集中して照射し、病気ではないところにはなるべく照射しない。ピンポイント(定位)照射は今までやってききましたが、それとは別の最先端の照射法を開始します。これにより収益性が高くなります。  
この新しい照射法(強度変調放射線治療)は正常組織になるべく放射線を当てず、病変部により多くかけるようにして副作用を抑える照射法ですが、実現には高精度な管理を求め、ガイドラインに沿ったものでなければなりません。例えば、放射線治療専門の技師が何名いるか、放射線治療医が何名いなければ、等的要因のほか、治療装置の物理的な品質管理についての、より困難な技術水準をクリアしているかが問われます。  
治療装置を増設すると収益性が上がることはわかりました。では、なぜ今だったのでしょうか。  
大岡 7年前の設置当時、ここまで当院の放射線治療室に患者

さんが来るとは思っていなかったということがあります。1台あれば9時から17時までフル稼働で40人は照射ができません。しかし、急激な患者増加は我々の予想を遙かに超え、昨年は60人を突破しました。一つ要因として当院は放射線治療に適応の多いがんを集中的に治療するセンター外来が充実しているという基盤がありました。特に消化器肝臓病センターからHCC患者さんの定位照射が続々と紹介され、やがて日本一の症例数を持つに至りました。また肺がんの定位照射は武田医師が第一人者であり、国内2位の症例数を誇ります。この定位照射は6万3千点と高い診療報酬が設定されていますが、その分時間と労力もかかる治療です。それに対応するためにメンバー各自レベルアップを図り、外部から放射線治療のできる技師や物理士を呼び、勤務体系を早番遅番とする事で診療時間を延長し対応しました。こうして必要に迫られた結果、現在の放射線治療チームができました。

弱です。こういった生活様式や治療方法の欧米化にともない、今後日本において放射線治療をうける患者さんが爆発的に増えることは十分予測されています。  
私たちが、がん患者さんに対して受け入れ制限をしたくないのです。いつ転移するか、大きくなるかわからない不安を抱えている患者さんに、大きな1カ月待つてくたさいとは言えません。医療従事者として心が痛みます。そういった物理的に患者さんを受け入れられない現実を解消し、最新鋭の効果的な治療をしていきたいということから、2年前より治療装置の増設をお願いし、ようやく実現できたのです。  
以前、ある放射線技師と話をしていて驚いたことがあります。それは、放射線治療においては放射線技師が直接治療に当たるという点です。治療は本来医師にだけ与えられた特権であるという認識を我々は持つていました。例えば、医師以外が外科手術を行うことはあり得ません。それについて深く興味を持ちました。

大岡 基本的なところから説明します。患者さんが外来を訪れた際、まず治療医師による診察が行われます。ここで放射線治療の適応があるか、他によい治療法がないかを患者さんと相談のうえ決めます。治療が決定すると、放射線治療の具体的な日程や日常の注意事項、治療に対する不安や疑問などについて、看護師が調査を行います。これらの情報をもとに治療する際の体位を決め、放射線技師がCTを撮影  
します。その後、薬の量を決めるように、また外科医をどの範囲に照射するかを医師と物理士がCT画像を用いてコンピュータで計画します。コンピュータが行うのは計算であり、実際に装置が計画通りに動くかどうか、放射線が正しく照射されるかどうかをきちんと調べないと治療効果と安全は保証されません。技師と物理士で計画が正しいかどうか、測定器材を用いて検証します。間違いや誤差があれば計算し直し、よく治療開始です。  
日々の治療はこの計画をきちんと再現することが大切です。我々技師は毎日体の位置を合わせ、CTを撮影し間違いがないことを確認して照射します。毎日患者さんと顔をあわせるので日々の様子を観察し、体調や副作用にも注意します。変化がある場合は医師や看護師に申し送りしながら対応を考えます。こうした様々な職種がチームとなって治療は進みます。  
後編は次号で今回の現場にアタックは放射線治療装置の増設工事がなげ決まったのか、そんな疑問から放射線治療室に話を聞いてみようという取材がはじまりました。  
今回の内容は、放射線治療についての基本的な事柄がメインになっています。次回の後編では、放射線治療室のスタッフの活動や、これからの展望について掲載する予定です。どうぞおたのしみ。  
※HCC 肝細胞がん。肝臓に発生する腫瘍の1つで、肝細胞に由来する悪性腫瘍。

「おはようございます、こんにちは、こんばんは」総務課の露木弥生さんは職員、患者さん分け隔てなく挨拶をします。はじめ、患者さんに挨拶するのを見て知り合いなのかと思っただけですが、すれ違う患者さんに見える限り声をかけているようです。とても気持ちのいいことだと気になっていたので、挨拶するようになりました。きっかけは露木さんにお伺いしてみます。  
新入社員で入った前職は、新

#### 千里の道も一歩から

と人でもわからなかったで、先輩である職員にはとりあえず挨拶をしようと思っただけです。挨拶が会社の方針だったというわけではなく、あくまでも自発的に始めたこと。その習慣が今でも続いているだけとお話されました。最後に、病院は患者さんが不安な気持ちでいらつしやる場所なので、少しでも気持ちよく和らいでくれたらという想いで挨拶していますと話してくれました。

#### リレーコラム 想いはつながる



大船中央病院は平成22年4月から社会医療法人になりました。でも医療法人の前に付く「社会」って何でしょうか。「大船中央病院を知りたい委員会」では、この「社会」という言葉(概念)を職員の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。  
世の中では、社会とかソーシャルという言葉をとくさん耳にすると聞きます。そこでこれらのキーワードを私たちがそれぞれが理解している範囲で説明してみたいと思います。「社会」という単語を考えてみたいと思います。

#### 最終回 社会医療法人として 果たさなければならぬ社会貢献

「大船中央病院がNEWSです!」が2010年8月より創刊されて半年が過ぎました。当コラムは社会医療法人となった大船中央病院がどのような社会貢献を担っているかを「社会」という言葉をキーワードにさまざまな視点からリレーしてきました。1号・社会事業(ソーシャルビジネス)、2号・医療ソーシャルワーカー、3号・社会参加、4号・病院の社会的役割、5号・社会は個人が創る、6号・病院の進むべき道。  
さて皆さんは社会貢献をどのように感じていますか。病院が果たす社会貢献には限りない夢があることを皆さんも感じてくれたでしょうか。この社会貢献に国も十分な評価をしています。実は社会医療法人は教育機関などと同じ非課税法人なのです。企業には30%程度の法人税がかかります。(新聞などでも日本の法人税が高いため減税すべきだという記事をしらば見ると思いますが)ところが社会医療法人は法人税がほとんど0%なのです。これは税金を払わなくてよいということではなく、国が税金分を社会貢献代として病院に支払っているようなものです。社会医療法人は社会貢献の対価を税金(言い換えると国民)から貰っている以上、社会貢献に尽くさなければいけないことなのです。  
医療が果たさなければいけない社会貢献は、実は簡単です。自分や自分の親、子供に受けさせたい医療をすればいいのです。大船中央病院がそのような病院になるように、皆が幸せになるような病院にするために、楽しく働いていきましょう。  
新年度号から当欄は胎動しつづける新しい大船中央病院の地域医療連携からさまざまな話題を紹介できればと考えています。豊かな地域貢献を目指して。